

令和5年度 第3回瀬戸市ICT活用・DX推進協議会 議事録

開催日時	令和6年3月15日（金） 午後2時から4時まで				
開催場所	瀬戸市役所 北庁舎4階 庁議室				
出席委員	10名	欠席委員	なし	傍聴者	1名
事務局	瀬戸市 経営戦略部 駒田部長 情報政策課 梶田課長、久保井主幹、岡田課長補佐兼係長、 水野主任、山田主任				
会議内容	<p>1. 会長・副会長挨拶 (安田会長)</p> <p>最近、注目されているスマホアプリで「C o t o m o (コトモ)」と言う音声会話型AIがあります。スマートスピーカーを利用して例えば独居のご高齢者とC o t o m o が雑談をするという実験がありまして、会話の品質もいかにもコンピューターがお話をしているような感じではなく人間に近い流暢なものでした。前日の会話の話題も記憶しているなど、しっかり学習もしていて大変便利で有用なツールとの印象を受けました。</p> <p>このように、ICTを使った新しいサービスが日々生まれている中で、私たちはアンテナを高くして取組みを推進していく必要があるとあらためて感じています。その意味でも、本日も取組みの進捗を報告いただいた上で委員の皆様からは是非忌憚のないご意見をいただき、今後の瀬戸市のDX戦略に活かしていただければと考えます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>(後藤副会長)</p> <p>瀬戸市のDX推進は、これまでの3年間で密度が大変濃いものになってきていると受け止めています。但し、今一度その足元を見直すべく、これまで繰り返し申し上げてきた「真に血の通ったデジタル・トランスフォーメーションを実現するにはどうしたら良いか」を念頭に本日も議論を深めたいと考えます。さらに継続的に、また活動的にDXの物事を進めるべく、本日も委員の皆様からの多くのアイデアと良いディスカッションがなされることを楽しみにしています。よろしくお願いいたします。</p> <p>2. 議事（事務局説明）</p> <p>「DX重点取組み事項」及び「瀬戸市ICT戦略推進プラン・官民データ活用推進計画」の進捗状況について 報告資料にて事務局から取組みの進捗状況を説明した。</p>				

<p>会議内容 (続き)</p>	<p>3. 各委員と事務局による質疑応答・意見交換 (岸田委員)</p> <p>今回の報告内容を聞いて、特に若年層から高齢層までデジタル活用のサポートを鋭意推進されている点に、誰一人とり残さない瀬戸市の取組み姿勢を感じました。</p> <p>さて、報告資料の項番5「A Iチャットロボットによる総合案内サービス運用」の取組みについて、前回の協議会では生成A Iの利活用について言及させていただきましたが、他の自治体では庁内にクローズした環境で生成A Iの利用を始めたところもあり、例えば文章の作成、記事の要約、メール文案の作成、課題抽出、アイデアの創出支援、また、画像を生成して新しいサービスのイメージを膨らませるようなこと等を実施されています。瀬戸市において、以上のような生成A I活用の今後の展望がありましたらお聞かせください。</p> <p>(事務局 岡田課長補佐兼係長)</p> <p>今回は生成A IのひとつCh a t G P Tをベースとしたツールを庁内のクローズした環境でトライアル利用させていただきましたが、生成A Iの利活用に関する本市の庁内アンケート結果では、先ほどご報告しましたように多くの職員が関心を持っているという結果でした。これを受けて来年度は、生成A Iの利活用に向けた職員研修等の実施ができないかと考えています。併せて、その利用ガイドラインも整備する必要がありますので、先行されている東京都をはじめとする他自治体のガイドラインも参考にさせていただきながら進めたいと考えます。</p> <p>(岸田委員)</p> <p>ご説明ありがとうございます。生成A Iは職員の方も便利に活用いただき、実務の効率化や、新たな仕組みの創出に繋げていただければと思います。</p> <p>次に報告資料の項番15「行政実務へのR P A適用」の事例として紹介されている気象警報・注意報の監視・展開の取組みにおいては、弊社のビジネスチャットのツールを採用いただきありがとうございます。取組みの実装に至るまでに他方式の試行錯誤も含めて約1年半を要したとのことですが、F A X用紙の削減枚数からすると効率化に大変寄与したことと思います。このビジネスチャットはA I－O C R連携はじめ、他にアンケート機能やタスク機能等がございます。他では安否確認のしくみとして活用いただいているケースもございます。今回の取組み以外で他の適用ケースとして今後の展望がありましたらお聞かせください。</p>
----------------------	---

<p>会議内容 (続き)</p>	<p>(事務局 久保井主幹)</p> <p>今回、自動化しました監視・展開の形を庁内の他のケースに適用する具体的な展望はまだございませんが、過日のDX推進員の座談会で本件を紹介しましたところ、現在監視している気象警報・注意報に加えて、熱中症の警戒情報など他のリスク情報も併せて監視できないかとの意見はございました。</p> <p>このようなしくみが構築できることを知ったDX推進員から他の適用事案の相談が今後来ることは期待できるかと考えます。</p> <p>なお、このように情報監視とビジネスチャットによる展開の自動化の事例は本市が初ではなく、他の自治体で本市より早く構築した所が既にございます点を付言させていただきます。</p> <p>(藤川委員)</p> <p>岸田委員もおっしゃる通り、住民の若年層から高齢層まで幅広くデジタル技術の啓発活動をされていることに加えて、庁内職員向けの座談会開催という、複数軸で計画的に施策を推進されている点は大変評価できます。</p> <p>自治体のDXは、住民サービスの向上を実現する一方で職員の負荷が高くなるケースも少なくないようで、最近のように生成AIを利用することで行政事務の労力削減に少し力を入れて進めていかれるとよいと考えます。生成AIの活用ガイドラインもさらに整備していかれるとのことですが、他の自治体様も生成AIの活用を色々模索している中で最近課題も出てまいりました。例えば、いわゆる「野良(のら)RPA」と呼ばれるケースで、「しくみを作ってそのまま野放し、つまり管理していない」という状態で、やはり生成AIについてもそれを使う部署は申請していただいた上で確実に管理・状況把握をしていくことも念頭に入れないと、後々何らかの問題が発生した際に大変困るであろうと思われます。その点についてはどのようにお考えかお聞かせください。</p> <p>(事務局 岡田課長補佐兼係長)</p> <p>東京都をはじめ先行の他自治体様が公開されている生成AI活用ガイドラインについては、目下、勉強させていただいているところです。そして、いくつかのサービス事業者と会話してきた中では、生成AI、RPA、OCRといった先進的なツールを単独で利用するのではなく、それぞれを連動・融合させるとさらに効果的になるとの助言もいただいています。その点も念頭に置きつつ、しくみを作ったら管理も確実にを行うという姿勢で進めたいと考えます。</p> <p>(藤川委員)</p> <p>今後、新しい技術が数多く出てくるかと思しますので、生成AIの利用に</p>
----------------------	---

<p>会議内容 (続き)</p>	<p>限らず、是非そのような管理の観点も重視していただければと思います。</p> <p>それから、デジタルデバイドの対策として高齢者が高齢者に寄り添いICT利活用を伝達するスキームは非常に素晴らしいと受け止めました。ボランティアのお年寄りがお年寄りを教えると、ひとつのコミュニティになっていくかと思いますが、例えばそのコミュニティを通じて高齢者の見守りのサービスの活用の拡大を図るなど、ICTサービスを存在や利点を伝達・広めることで使いたいと手を挙げる方も出てくる可能性があるのではと考えます。ご検討ください。</p> <p>(事務局 岡田課長補佐兼係長)</p> <p>サービス拡大に向けたひとつの良いヒントをいただき、ありがとうございます。</p> <p>(穴山委員)</p> <p>先ず生成AI関連では前回協議会で回答作成におけるAIチャットボットの利用の話が出たばかりですが、半年ほど経過した中で既に試行されたことは大変スピーディーに対応されている印象があります。関連して自治体におけるAIの利活用については、私どもベンダーでも諸検討をしているものの、有用なアイデアはやはり自治体の職員様側にあるかと思っておりますので、POC (Proof of Concept : 概念検証) のような形でご協力できる事案がございましたら、是非お声がけください。</p> <p>次にAI-OCRに関連しまして現在、同じ手続きにも関わらず書面様式が各自治体様で異なるものは、システムの標準化・共通化の動きの中でゆくゆくは統一されていくものもあるかと推測します。ご存じの通りAI-OCRは愛知県の複数自治体で共同利用されており、よく利用される類の共通の書面様式の雛形は既にご提供させていただいておりますので、一度ご覧いただき大いに活用いただければと思います。</p> <p>最後に「システムの標準化・共通化」については、まさにこの2024年、25年がピークになってまいります。そうすると先ずは重要なガバメント・クラウドへの接続をする愛知県のLGWANの対応は24年度(令和6年度)10月ぐらいからスタートとなります。県のこの進行状況を注視して推進いただければと思います。それから、システムの環境構築も24年度中から開始であれば、国が費用面で支援する第4期の早期移行検証への応募についても意識して推進いただければと考えます。システムをご提供するベンダーとしても、この標準化対応のシステム開発は去年の3月に提示された仕様書に基づき2025年末までに完成すべしという前提で始まりましたが、これまでに何度かあった仕様変更や今後の定額減税など大きな法改正対応も吸収しつつ進める必要がありまして、私どもは鋭意対応してまいりますので、是非</p>
----------------------	---

<p>会議内容 (続き)</p>	<p>一緒になって、この2024年、25年を乗り越えていきたいのでよろしくお願いいたします。</p> <p>(事務局 梶田情報政策課長)</p> <p>システム標準化・共通化の情報ご提供ありがとうございます。相当数の自治体が2025年度中の稼働は間に合わないと言われていた中で、本市は提供ベンダー様のご協力もあって25年12月を稼働の目標に、報告にもあります通り「住記」と「印鑑登録」のシステムの移行を進めているところです。また、並行してこれら以外の18業務のFit & Gap作業（旧システムと新システムの相違点を事前に把握し対策を検討する作業）も進めてまいります。そして先行する前述の2システムは国の支援を得られる検証事業としても申請します。つきましては引き続き、お力添えをよろしくお願いいたします。</p> <p>(磯村委員)</p> <p>現在、学校のほうでも様々なDX・ICT活用が進んでいる中で、例えば中学校ですと、報告資料にもありました通りキャリア教育の一環でGoogleスライドを使った分かりやすい発表がなされました。また、出欠席連絡や出席簿管理、あるいは前回の協議会でも申しました生徒が心の状態を天気で表現できるような、ICT活用もかなり進んでいる感がございます。</p> <p>生徒の自宅でのタブレット利用については、保護者様の利用時間帯について危惧するご意見もあるため、長くなりすぎないように指導していますし、最近では文部科学省からも小・中学校の段階では先生との対面での交流を基本とすべしという指針が出ているところです。そのような点も踏まえて、安全なタブレット利用という点に今後も配慮をしていきたいと思っております。</p> <p>一方で学校業務のDXについては、先生方の働き方改革に繋がるので今後も精力的に進めていきたいところです。例えば答案採点システムは市内の全中学校が利用していて効率化に大きく寄与しています。今回協議会冒頭で安田会長からお話がありましたが、ICT技術やサービスが急速に進展していく中で、アンテナを高くしてそれらをキャッチアップすべく専門家のアドバイスをはじめとする事務的なサポートが学校内で大いに求められているところです。</p> <p>一方、情報漏えいの防止も極めて重要ですので、教育部の組織体制の強化も図ろうとしています。来年度からはそれを担うセクションを一元化すべく情報政策・ICTの職務経験がある職員を充当しながら進めてまいります。</p> <p>最後に、私ども教育分野でも就学支援をはじめとしたシステムの標準化を見据えていく必要があるのですが、国のほうも、その根本となる教育制度の標準化を是非お願いしたいと考えています。</p>
----------------------	--

<p>会議内容 (続き)</p>	<p>(安田会長)</p> <p>教育分野のデジタル化はご承知の通り、国も人材育成に相当な力を入れ始めました。高等教育、例えば私が所属します大学でも情報学部や大学院の情報学研究科を早くに創設しています。このように、この地方では高等教育における情報系の学びの重要性は認識されてきていますが、その前段階の小・中学校のレベルでもデジタル人材の育成は待ったなしの状況と捉えています。是非瀬戸市としても、相応の予算措置のもと、卓越したデジタル人材育成の枠組みを作っていただくことを期待したいと思います。</p> <p>(高田委員)</p> <p>私ども瀬戸商工会議所がご支援申し上げているこの地域の企業様で、とりわけ小規模な事業者様はお支払いのデジタル化（キャッシュレス決済）としてコード決済などを結構導入しておられます。会計処理も商工会議所がセミナー等を通じてご支援していることもあり、機械化・デジタル化は一定レベルで進んでいると見ています。</p> <p>それから、コロナ禍の影響もあり商工会議所のセミナーも、対面とオンラインを融合した現在の形が定着してきており、これは以前のような対面一辺倒のやり方には戻らないであろうと考えます。</p> <p>一方で、課題認識があるのはFAXによる連絡・伝達で、やはりある意味、強制的な紙の排出がアラートとして効果的な部分もあります。と言いますのは、スマホのプッシュ通知はご覧になるものの、パソコンの方に来る通知は注視されないことも多いため、FAX連絡はすべからく廃止という所まではいかない現状があります。</p> <p>それから現在、市が「CGキッズ・プログラム」等により次世代デジタル人材の育成を推進されている一方で、商工会議所のほうはキャリア教育を実施しています。小・中学校の年齢層のデジタル育成は市も手厚く行っているので高校・大学の年齢層にもそのような育成を実施して、この地への愛着を醸成できれば良いかと考えます。彼らはいったん市外で働くことがあるかもしれませんが、最後は瀬戸市で働く、あるいは瀬戸市で創業する事につながるようなしくみ作りもあって良いかもしれません。商工会議所と瀬戸市が連携して創業に向けた「仕事塾」を開設していますが、若い人材がいつかこの地に戻り活躍したいという人づくりのご支援はできますので、そのような枠組み作りが市と共にうまくできると一層良いのかなと感じているところです。</p> <p>(事務局 岡田課長補佐兼係長)</p> <p>商工会議所様の建物の中に瀬戸ロータリークラブ様の事務室がございますが、同クラブの主催でコンピューターグラフィックスのコンテンツ (Rotary</p>
----------------------	---

<p>会議内容 (続き)</p>	<p>Youth Computer Graphics Award) を開催させていただいています。今般、大学をご卒業してフリーのエンジニアになる方が受賞されて、ご本人が大変お喜びになった様子を見るにつけ、高田委員がご示唆されたような枠組みも今後有効と感じた次第です。また、生成A Iについても、商工会議所様とデジタルパークリサーチセンター (DRPC) が連携してC h a t G P Tの講座を持ちました。子供向けではありませんが、比較的若い方も参加されており、同クラブ様のご協力にも心より感謝申し上げる次第です。</p> <p>(安田会長)</p> <p>高田委員がお話された、創業に向けた塾の開設に関連して、私自身も今、中部経済連合会様と名古屋市様が設立した「ナゴヤ イノベーターズ ガレージ」という所で様々なイベントを実施していることもありまして、大変有効かと思いました。同ガレージで開催されるイベントは、これまでは大学生や若手社会人向けの内容が多かったのですが、最近もう少し年齢層を下げて、例えば小・中学校生に、将来は創業するという生き方もあるということ、その年齢の頃から意識していただいてもよいのではと考えます。</p> <p>(寺田委員)</p> <p>今回の報告資料全体については、年度ごとの実績や今後の予定が細かく説明されているので、回を追うごとに内容が多くなってきている事や、加えてテクニカルな表現が内容に多くあるため、市民の立場からしますと情報として咀嚼するのは困難であるかと感じます。報告内容については「瀬戸市のDXとはこれとこれである」などと、誰でも理解しやすく印象的な形にしていただければと思います。</p> <p>また今後、税収や職員数が徐々に減少していく中で、デジタル化自体は絶対必要であると理解はするものの、では瀬戸市のデジタルは産業的そして商業的にどこに傾注しているのかを明確に実感できません。自分の立場である地域の商業・産業の振興という点で、以前もお話したかもしれませんが、ものづくりにおける「一子相伝」や「技術の継承」をどうしていくかという課題がありまして、作品の製法・レシピが今は既にわからない・作れない、ということが多々あります。そこで、例えば瀬戸のツクリテの皆様の貴重な技術・ノウハウを何等かの手法で次に残す必要性を感じています。それをどう残すか、伝えるかは、ツクリテさんとの協議も必要かとは思いますが、レシピ(製法)をクックパッドのようなアーカイブとしてデジタル的に残していくと、1300年以上続いてきた瀬戸市のキラーコンテンツたる焼き物産業の継承に繋がっていくのではと考えます。その意味では、瀬戸市のDX推進においても、そのような視点の施策を取り入れていただければと考えます。</p> <p>それから、G I G AスクールのK P I (Key Performance Indicator : 重要</p>
----------------------	--

<p>会議内容 (続き)</p>	<p>業績評価指標)として児童・生徒の理解度が令和3年度の25%からはじまり令和5年度で75%とある点についても、瀬戸市では相当早い段階でタブレットを配布したので、この数値が妥当性には疑問符が付くのではと感じました。このように、事業の推進において試行錯誤で努力しても目標値に近づかないのであれば、進め方を再検討することも大切と考えます。</p> <p>また、同じく報告にある高齢者の見守りサービスについては直近の利用者数が70人とありますが、記載されている今年度の目標の1000人に対してこの数字をどう見るかのご見解をお聞かせください。</p> <p>(事務局 久保井主幹)</p> <p>担当部署は利用者拡大に向けてこれまで鋭意努力してまいりましたが、情報政策課として目標未達の要因について深堀りができておらず申し訳ございません。目標の設定時に遡ってそのあり方について申しますと、民間企業ではサービスの市場展開における獲得顧客数を算段するひとつの手法として、購買層を明確にイメージして検討することがございます。例えば物品販売のWebサイトの閲覧者について、年齢や性別、保有資産、そして生活志向や趣味までも想像上で厳密に想定した上で、そのタイプの層の顧客が世にどれぐらいおられるかを推計して事業の成否を論じたりします。行政においてこのマーケティング手法に実効性があるかどうかは明言できないものの今後、サービスの展開計画においてこのようなアプローチも一手段として考えられます。</p> <p>(安田会長)</p> <p>寺田委員のご発言は非常に的確なご指摘かと思えます。KPIについては実情を踏まえて今後も再検討していただければと思えます。また、瀬戸市のDXの取組みは多岐に渡っていますので、その中でもフラッグシップ的なものを増やして推進状況を可視化していけば、市民にとってのわかりやすさが増すのではと思いました。</p> <p>(事務局 久保井主幹)</p> <p>報告のあり方のご示唆についてもありがとうございます。今後は市民様の目線でその表現方法等をさらに見直して、取組みのわかりやすい情報開示・ご報告につとめたいと考えます。</p> <p>(原委員)</p> <p>私ども西陵地区のデジタルデバイド対策の取組みをご紹介しますと、3年ほど前まで地区内の情報のやりとりは殆どがFAXで行っていましたが、ICTに知見のある事務員の方がEメールやLINEによる連絡を推進して改</p>
----------------------	---

<p>会議内容 (続き)</p>	<p>善が随分進みました。</p> <p>また、先般2月に地区でグラウンドゴルフ大会がありまして、ご高齢の方々が参加され盛況でしたが、大会後の表彰式で実際のプレーの画像を会場で投影してみたら皆様に大変喜ばれました。そこで、このような画像の共有と、地域力で推進しているスマホ・タブレットの操作講習等を組み合わせて実施すれば、さらに出席者の興味をひいて効果的ではないかと感じました。</p> <p>それから、前回の第2回協議会で発言いたしました、市役所でも1つの窓口で情報を集約するワンストップサービスのものがあればというお話に関連して、例えば市のホームページ内に自治会向けの情報を発信・共有する場が存在し、そこで地区から市のほうに要請している道路の補修など各事案の進捗が確認できたりすると、当の自治会が状況を正確かつ迅速に確認できるので大変便利かと考えます。自動車のメーカーやディーラーさんでは、ユーザーに対してオーナーページとかマイページのようなしくみを運用されていますが、これに似たような形をイメージしてお話をしています。このようなしくみがあると、他にも瀬戸自治連合会から提供される紙媒体の情報発信の変革につながる可能性も出てきますし、最初にお話したICTの知見のある自治会の事務員の方々のお力添えをいただきながら、DXがさらに進展して地域活動における利便性が高まっていくと考えます。</p> <p>(安田会長)</p> <p>原委員の大変具体的な事例をもとにした、市役所内にとどまらない市全体のデジタル力を向上させるようなご示唆について大変ありがとうございます。全ての自治会様が一斉に取り組むことが難しくとも、まずは一部で挑戦して成果を出して良い事例として横展開していただくと良いかと考えます。</p> <p>市と地域コミュニティのつながり・情報共有の今後のあり方という点で、事務局としてのご見解はいかがでしょうか。</p> <p>(事務局 梶田情報政策課長)</p> <p>情報政策課として全方向での課題の把握が難しい状況下で、市と地域の情報共有の今後のあり方に関する貴重なご示唆に感謝申し上げます。各課のDX推進員との座談会は、今ご指摘のような課題提起があることを期待して進めてまいりましたが、今回ご提起されたご意見については関係課と情報共有・意見交換したいと考えます。</p> <p>(後藤副会長)</p> <p>まずは今回の充実した報告内容に加えて委員の皆様からの様々な視点でのご意見提起ありがとうございます。研究者として、そして市民としての視点で思うところが多々ありますが、瀬戸市のデジタルデバインド対策として高齢</p>
----------------------	--

<p>会議内容 (続き)</p>	<p>者が高齢者に教えるという形は自分も学生時代にCMS (Contents Management System : ホームページを制作・更新するツール) を使って当事者が自立してシステムの構築・運営・保守をするにはどうしたら良いかに取り組んだことがあります。それは「教えてもらう」というステージからさらに1歩踏み込んだ形となりますが、昔と比べると今は便利で簡単なツールも多いので、それらをうまく活用しながら自分たちでどう運営管理していくかをリードするキーパーソンのような人材が色々なところで登場されると素晴らしいと思います。「仕事塾」の話がありましたが、私もこれまで、学生で起業された方を取材してYouTubeやSNSなどで情報発信することを数年来続けてまいりました。どの方も非常にエネルギッシュに想いを持って起業されており、こう言った方々が今お話したキーパーソンになっていただけたら、DXの中にまさに彼らがどう参画いただけるかも重要なポイントかと思えます。そのような方々の横の繋がり的な部分を大切にしながら、過度な負担をおかけしない形でご助力いただけるような仕組み作りも重要になってくるかと考えます。</p> <p>次に市のDXの各施策については、寺田委員も言及されていましたが、居住者・生活者として見ると実感が薄いという印象はたしかにございます。瀬戸市に居住し自ら情報を取りに行けば色々得られるかもしれませんが、そうしなくとも施策が便利さと共に実感していただけるような周知の方法も考えていただくと良いかと考えます。</p> <p>そしてそうなる、いよいよ市民の皆様もDXが前提となる社会、例えば1週間にできる仕事は従来の5から10になるようなスピード社会に適応していく中で、元の5に戻るようなことになると怖いし不満が出てきます。今年の元日の能登半島の地震でもそうでしたが、デジタルは電力の問題をはじめ常に万全・万能ではないため、そのしくみに影響する致命的な問題が発生した際に、例えば利用するAIの仕様が突然変更されたり、サービスが終了したりするような場合に総崩れになるという事がないように、これらの想定リスクに対応できる細かなマネジメント・対策も併せて必要と考えます。そして、しくみを運用する人々に過度なストレスや仕事の負荷を集中させない意味でも、日頃からの細かな、そして現状に合ったリスクマネジメントを当事者全員で共有してしくみを作り上げていくことが、これからの安定したDX推進に向けてとても大切なことであると思えます。</p> <p>(事務局 梶田情報政策課長)</p> <p>本市のDXはこの3年間は足場固め、すなわちインフラ整備ということで市役所職員にとって効率的で働きやすい環境づくりをしてきた一方で、瀬戸市らしい、市民の皆様が実感できるDXというものを今後、本腰を入れてシフトしていく必要性も感じています。コンビニエンスストアやドラッグスト</p>
----------------------	---

<p>会議内容 (続き)</p>	<p>アがそうであるように、市民の皆様が面倒さを感じることなく簡単に手続きができる窓口DXを今後、いろいろな他事例を研究しながら模索していきたいと存じます。</p> <p>(安田会長)</p> <p>委員の皆様、本日は有益なご意見をありがとうございました。KPIは大切ですが、その裏側にある本質的な部分もしっかりとフォローアップして今後の計画に反映していただければと思います。</p> <p>私からの意見としまして、一つめは、デジタル人材の育成は極めて重要で、ご紹介いただいたDX推進員のアクティビティにも関連しますが、例えば、各部署のデジタルに強い職員でチームを構成して課題認識の次のアクション、すなわち実際のソリューションの構築につなげていただき、その中で職員のデジタルのリスクリングも含めた人材育成ができるとよいと考えます。例えばGoogleの社員は業務時間の10パーセントを本業以外に投入して創造性を発揮しているとのことで、そのような事は自治体では難しいかもしれませんが、市役所全体のデジタル力を上げるという意味では大変有効かと考えますので検討いただければと思います。</p> <p>二つめは、生成AIの活用例で、私どもの大学の研究室はある市の商店の皆様と一緒に実験をしまして、それは店に関するネットのネガティブなレビュー・評価に対して、生成AIが出す返答を参考にしながら自ら回答をするという手法です。また、別の市ですが、ご高齢者が書かれた文章を画像の生成AIが絵図にしてくれて大変喜ばれているなど、このような生成AIの様々な使い方を参考にいただき、積極的に活用していただければと思います。</p> <p>三つめは、寺田委員もご指摘のモノづくりのDXが弱いという点に少し通じるのですが、例えば自動車メーカーさんはデザインから試作、そして製造のプロセスでメタバースを活用するとさらなる省力化につながると既に考えておられます。そこで、瀬戸市も自ら運営するメタバースの「バーチャル瀬戸」において、これまでのアミューズメントの側面に加えて、陶器の職人さんの暗黙知を瀬戸市の財産として継承するようなしくみづくりも、デジタルツイン（リアル（物理）の空間にある情報をIoTなどで集めて送信されたデータを元にサイバー（仮想）の空間で再現する技術）の取組みとして将来的に挑戦していただくのも一つかと考えます。</p> <p>四つめは、公立保育園のWi-Fiが整備されたことを受けて、今後は保育士さんをサポートするような、アプリを含めたWi-Fi活用について当事者にヒアリングをしていただき、保育園の業務をデジタルで支援できるような良い事例を是非作っていただければと考えます。</p> <p>五つめはテレワークに関係するかと思いますが、先般の能登の地震の場合</p>
----------------------	---

<p>会議内容 (続き)</p>	<p>もそうでしたが様々な資料・情報の共有が現地現場で必要とされている現状を考えますと、テレワークをベースとしたその辺りの知見・ノウハウも是非蓄積しておいていただくと災害発生時の対応に役立つかと思えます。</p> <p>最後に、オープンデータについてですが、高校生や中学生と市役所の職員の皆さんが瀬戸市の課題についてオープンデータを見ながら議論して課題の解決を図るようなアイデアソン(「アイデア」と「マラソン」を掛け合わせた造語。新しい製品・サービスなどの開発に向けてチームやグループでアイデアを出し合いブレインストーミングを行うプロセス)をするというのはいかがでしょうか。学校の先生の中には大変熱意のある方もおられますし、これを行うことで、参加した生徒の心に「市と共に自分のまちの課題を考えた」という経験値が残り、将来、瀬戸市に戻って来るきっかけになるかもしれません。地元愛の醸成にオープンデータが一役買うようなことになるわけです。</p> <p>以上のような点を、少し頭の片隅に置いていただき、今後まさに瀬戸市ならではのDXを推進いただければと思います。</p> <p>(大森委員/副市長)</p> <p>これまで一定の進捗を見た本市のDXは、コロナ禍という環境変化がそれを加速した大きな要因であったと考えます。その上で、ようやくDXで普及してきたマイナンバーカードのように、使えるようになってきたアイテムを今後、どう利用してさらなる便利さにつなげるかが重要になってくると考えます。マイナンバーカードに加えてDXの諸施策について言葉としていろいろな要望が上がることと思います。</p> <p>一方で私どもは目下、システムの標準化・共通化への対応に迫られていますので、それに確実に対応しつつ、上がってくる細かい要望も大切にしながら進めていくことが、さらなる行政サービス、市民サービスの向上につながると考えています。</p> <p>(高田委員)</p> <p>メタバースの「バーチャル瀬戸」を活用した商業・観光振興は、今後どのように進められるかお聞かせください。</p> <p>(事務局 梶田情報政策課長)</p> <p>現在、バーチャル瀬戸の中にある仮想の建物「パルティセト」に企業が出展していただくブースをサンプルでご用意しています。将来はそのようなブースを本格化し、そこで商品紹介をする共にECサイト等へつなげて実際の商品販売ができればと考えています。そのような取組みにご参画いただける事業者・団体様を募集して、ゆくゆくは共同事業体としてイベントの開催や商品販売により、この仮想空間が常に何かしら賑わっている状態を目指した</p>
----------------------	--

<p>会議内容 (続き)</p>	<p>いと考えています。</p> <p>(寺田委員)</p> <p>焼き物の販売について言うと、商品に関する様々な選択肢をチェックしていくと欲しい物が絞れるというしくみがあると良いと思います。関連して最近、欧州はリヒテンシュタイン公国の方が市役所を通じて当社に突然来訪されたことがあったのですが、その方は瀬戸市の焼き物の製造や販売の場所の情報をよくご存知でなかったもので、とりあえず市役所に飛び込んだ、という事でした。つまり、焼き物を目当てとする方向けのフローというか、分かりやすいガイド情報という点で例えば「バーチャル瀬戸」で関連情報をトレースできたりすると良いかと思います。名古屋鉄道が営業する瀬戸線の終点である尾張瀬戸駅を起点に観光PRをしていこうとされる新聞記事を見ましたが、このような公共交通機関ともバーチャル瀬戸がうまく連携することで、デジタルの側面だけではなくアナログ的なものとの相乗効果でまちの魅力の発信ができるような気がします。</p> <p>(高田委員)</p> <p>この地で毎年開催される「せともの祭り」も、関係者がSNSで事前に開催の周知を積極的に行い、多くのフォロワーができて盛り上がるというPR活動を地道に繰り返しやっていて、そのあたりの効果が出始めたのは良いことですが、PRがあちこちで行われて散漫になってくるのは逆にもったいで、それらを「バーチャル瀬戸」に集約してその中の1つか2つを見たら行きたい場所がわかるようになるのも良いかと思います。</p> <p>(寺田委員)</p> <p>生成AIが瀬戸焼を何等かの形でうまくPRしてくれたり、また、画像生成AIがマグカップに焼き付ける絵柄を作ってくれるなど、DXの技術が点ではなく線でつながってくると観光・商業振興のひとつの力になるような気がします。</p> <p>(後藤副会長)</p> <p>今の高田委員と寺田委員のご発言にあった物事の横の連携、線でつながるDXの効果についてですが、全体で見るとうまく繋がっていないために結果的に無駄に見えてしまうことは多々あるかと思います。その理由を考えますと、それぞれの方が自分の仕事に忙殺されるあまりクリエイティブな事にじっくり取り組むことが阻害されているような印象があります。よりクリエイティブな気持ちが湧き上がることに時間を使っていけるような余裕が必要ではと考えます。このクリエイティブなマインドをDXでサポートすることがで</p>
----------------------	---

<p>会議内容 (続き)</p>	<p>できれば、もともこの地域はモノづくりに強みがあり、またクリエイティブな事に感性が向いている方々が多い所だと思いますので、それを後押しする環境や雰囲気はD X活動の中でどう作り上げていくかということは極めて重要であると考えます。</p> <p>(安田会長)</p> <p>委員の皆様におかれましては、本日も有益なご意見をいただきまして本当にありがとうございました。あらためまして感謝申し上げます。</p> <p>質疑と意見交換は以上となりますので、進行を事務局にお返しします。</p> <p>5. 閉会</p> <p>(事務局 梶田情報政策課長)</p> <p>委員の皆様、今回も有意義なご意見を賜り大変ありがとうございました。本日の協議内容は、これまで同様に後日Eメールで皆様にご確認いただいた上で市の公式ホームページにて公開させていただきます。</p> <p>最後に本市の経営戦略部長よりご挨拶申し上げます。</p> <p>(駒田経営戦略部長)</p> <p>本日はお忙しい中ご参集を賜り、あらためまして厚く御礼申し上げます。</p> <p>本日のご意見やご示唆は今後のD Xの取組みにつなげてまいりますと共に、瀬戸市として来年度から3年間をかけて策定する第7次総合計画に織り込んでいく必要性も認識いたしました次第です。</p> <p>今後も、それぞれのお立場からご意見をいただきながら、本市の行政をより良くしたいと存じますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>(事務局 梶田情報政策課長)</p> <p>それでは、これにて令和5年度第3回の協議会を閉会いたします。今年度のご参画についても、あらためまして大変ありがとうございました</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>
----------------------	--